

2025 年度冬休み前挨拶 「な」の力

78,79,80 期生 3 学年が集う今年、最後の集会です。という挨拶を考えていましたが、実は 3 学年集まる最後の集会は 10 月 6 日後期始業式だったのですね。駆け足で一年を振り返ってみます。

今年、最初に 3 学年がそろったのは 4 月 9 日、対面式の時でした。何よりも印象に残っているのは、暖かい拍手です。入場する一年生に途切れることなく送り続けた拍手、その音に包まれながら入場する 1 年生。笑顔で迎える 2・3 年生。離任式でも 2, 3 年生のみなさんは離任される先生方のお姿が見えなくなるまで拍手でお送りしました。あなたたちの躊躇なく、そして途切れることなく送られる拍手はいつも多くの人を勇気づけ、力を与えてくれました。

「最初」は、間違いなく意識して臨めますが、「最後」はいつも突然やってきます。まさか 10 月 6 日が最後などとは思っていなかったので、あの日にみんなの拍手を味わい尽くしておくべきだったと少し後悔しています。常に目の前の与えられた機会にベストを尽くさねばならないということを強く感じてカメラの前に立っています。

78 期生 3 年生にお話しさるのは最後のチャンスになります。

とにかく暖かい 78 期生。沖縄宿泊野外行事、体育祭はもちろん、課題研究の取り組みや発表、人権講演会、授業見学の時ですら、関わった人をすべて笑顔にして、心を溶かしてしまうようなふくらみと暖かみのある 3 年生、78 期生。120 頭以上のカンガルーが私の箱から飛びはねていきました。3 人に 1 人は持っていることになります。生徒玄関で「わっ」と集まって、出来不出来のあるカンガルーから思い思いに好きな色を選んでいたあの時間は忘れられないひと時でした。

79 期生 2 年生。

スプリング・オータムセミナー、宿泊野外行事、文化祭。そして人権講演会、さらに、さらに勉強会。自分たちの力でどこまでできるのか。でも自分の身のまわりの人だけが幸せになればいいのではないと感じる人が多くいる 79 期生。多くの困難を乗り越え、「できない」を「できるかもしれない」から「できるはず」まで変える力のすごさにいつも圧倒されています。change は自動詞と他動詞の両方の働きができ、相互に影響を及ぼし合っていることに気づかせてもらいました。ありがとう。

80 期生 1 年生、個性的な 2, 3 年生とのふれあいの中で、素直で明るい立ち居振る舞いがこれからの中高の未来を感じさせる力で漲っています。『お~ざいま~す』という元気かつ粗暴な挨拶も、少し小首をかしげて可憐に声をかけてくれる「おはようございます」にも毎朝、力をもらっています。あなたたちが先輩たちから渡されている糧は次年度入ってくる 81 期生にも繋いでください。

2026 年がやってきます。新しい年の始まりです。環境が変われば、好む、好まざるに関わらず「新しい」ことに次から次へと挑戦することになります。「新しい」ことはそのこと、

そのものだけでみずみずしく、Freshなものです。でも、だからこそ、戸惑い、少し疲れてしまうこともあるでしょう。常に、そうあり続けることは難しい。そんな時に大事にしてほしいひらがな一文字があります。そのひらがなとは何でしょう。今年最後のペアワークです。「新しい」という言葉に一文字付け加えてください。

ひらがな一文字は「な」です。対応に疲れたり、道を行きあぐねたり、答えが見つからないとき、「あなたらしい」とは何かを問い合わせてください。この世界の中でたった一人しかいない「あなた」は何を望み、何を願い、生きているのか。そして何ができるのか。何度も申し上げている、一自分が世の中でなくてはならない存在だということに気づく（この世界〔宇宙〕のいつかどこかで、あなたじやなきやダメだというヒトが待っている。）—ということに気づくことです。

3学年の生徒全員への最後のメッセージとしてどうしても伝えたかった言葉は「あなたしさ」をしっかりと見つけ、見つめ、自分のことを慈しむことです。そして周りにいる人もそれぞれの「らしさ」を大切にしている存在だということに気づき、愛おしめるようになることです。そして、ずっと、今年みんなが送り続けたような拍手を心から周りの人にささげられるようになります。そうすればどんなことも乗り越えられる「やさしさ」「強さ」「暖かさ」を分かち合え、前を見ること、空を見上げること、一步踏み出すことができるはずです。

今日はクリスマスイブ、I wish you a Merry Christmas & a Happy new year to all of you!
2026年みなさん一人ひとりに最高の「な」が舞い降りてきますように願いを込めて 2025年最後のあいさつの言葉とします。